

姫路顕栄教会

# エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

## 救いの兆しに喜ぶ

～シメオンの賛歌から～

主よ、今こそあなたは、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。(ルカ 2:29-30)

今年に入ってコロナの感染が今までに無い勢いで急拡大しています。いつ正常な生活に戻れるのか全く予想がつきません。

飲食店や観光業など、コロナ禍によって経済的な打撃を被っている方々にとっては、本当に先の見えない苦しみが続いていることと思います。しかし先の見えない苦しみと言う時、それはコロナに限らず、様々な苦悩について言えることでもあります。苦しみの苦しみの所以の一つは、その先の見えなさにあるのではないのでしょうか。

### 救いの兆しに喜ぶ

2月に入って最初に迎える教会の祝日に「被献日」があります。日本の赤ちゃんを連れてお宮参りをするのに似ていますが、イエスの降誕後、マリアとヨセフについて「モーセの清めの期間が過ぎた時、両親は幼子を主に献げるため、エルサレムに連れて行きました(ルカ 2:22)」とあります。

降誕日から40日目となる2月2日の被献日が記念しているのは、幼子イエスが神に献げられたということです。

この時、シメオンという老人が神殿で幼子イエスに会いました。彼は信仰篤く、正しい人で、聖霊からメシアに会うまでは決して死なないと告げられていました。

彼は幼子に会うなり、メシアであることを知り、「シメオンの賛歌」と呼ばれる冒頭の聖句をかたりました。それは、約束のメシアを目にすることが出来た以上、もういつ召されてもいいという、大変な喜びに溢れた言葉です。しかしこの時、彼の見たメシアとは全くの幼子でしかありません。

しかしながら、その幼子イエスの内に、神は確かに私たちを顧みていてくださっている、その救いの兆しを受けとめて、彼はここまでの喜びに満たされたのでした。

### 救いの喜びを伝える器に

具体的な、また御力に溢れた救いの業がなされる以前であっても、それが必ず与えられることを確信できる時には、希望と喜びに溢れることになるでしょう。

それは、神は決して私たちをお見捨てにはならない。愛して下さっており、必ず救ってくださるという確信です。そして先の見えない状況でも、その神の愛と救いを信じた時、希望と喜びを持つことが出来るのです。

今、様々な状況において先の見えない苦しみのうちにある人々が数多くいる時、神が私たち自身の信仰を強めて下さり、私たちを神の愛と救いを伝える器として頂けますように共に祈り求めたいと思います。